

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	東北大学インクストーンズ	
代表者名	石塚奈緒	
連絡先	TEL : 080-2805-6788 FAX : なし	E-mail naoishizuka0611@gmail.com

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	石巻市内公営住宅でのサロンやイベントを通じたコミュニティ形成支援と派生した寄り添い活動
事業の目的	<p>東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市では、避難所・仮設住宅へと移り住んで来た住民の移動が、終の住処とも言える公営住宅へと落ち着き始めている。住民の中には、震災前の土地とコミュニティや文化が異なることで複雑な思いを抱える方や、自治会の高齢化の影響を一手に引き受ける高齢者が少なくない。そのような方々の多くは住民同士の交流が少なく、他の住民に悩みを打ち明けられないような状況にある。</p> <p>この現状に対し、学生という年代・身分を活かして、広いコミュニティ形成支援や個人への傾聴・寄り添い活動を行い、住民に生き活きとした豊かな生活を送っていただくことを目指して活動を行っている。</p>
事業の具体的内容	<p>当団体は1,2か月に1回（年10回程度）の頻度で石巻市を訪れ、主に復興公営住宅の集会所でサロン活動を行っている。サロン活動では、手芸企画・ごはん企画・足湯などを通して住民同士のコミュニケーションを促すとともに住民の傾聴を行っている。ほかにも、住民とより親密な関係性を築くために住民のお宅を訪問する活動や、自治会が行う夏祭りなどのイベント運営に協力する活動も行っている。</p> <p>具体的には、12月に門脇東復興公営住宅・吉野町復興公営住宅でクリスマスケーキ作りを、2月に門脇東復興公営住宅でオリジナルカレンダー作りを企画し、各回15～20名の住民に参加していただいた。参加していない住民にもアプローチするために、サロン活動に合わせて戸別訪問も実施し、企画の案内やヒアリングを行った。</p>
活動の開始から完了までの流れ	<p>【活動前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日に実施している定例ミーティングで、活動の約1か月前から計画を始める。 ・活動ごとに目標を定めた上で企画を考える。 ・現地と連絡をとり、各公営住宅の会長にチラシの配布を依頼

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動前日に物品等を準備する。 <p>【活動当日】</p> <p>①会場準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回4～5個のグループを作る。 ・メンバーは必ず名札を付ける。 <p>②受付開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民に来場者名簿に名前等の記入してもらう。 ・住民に名札（以前の活動で住民に作ってもらったもの）を付けてもらう。 ・メンバーがそれぞれグループに入って交流を始める。 <p>③サロン開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足湯を行う場合は、企画中に希望者を募って順番に案内する。 <p>④サロン終了</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回1時間半～2時間程度で企画を終了し、住民の見送りをを行う。 <p>⑤会場片付け</p> <p>【活動後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動直後や定例ミーティングで、活動の振り返りを行う。 ・活動の良かった点や改善点を共有し、次回の活動につなげる。 ・住民との交流の中で気にかかった点は「つぶやき」として記録し、住民との関わり方を見直したり、必要な場合は新たな支援を行ったりする。
<p>活動の成果と教訓</p>	<p>当団体の活動先の中には、自治会に関わる若い世代が少なく、自治会の高齢化が進んでいる公営住宅があり、活動における大きな課題となっていた。そこで私たちは、これまでに夏祭り企画や芋煮会企画などの若い世代が参加しやすいようなサロンを実施し、高齢世代と若い世代の交流を図ってきた。12月の活動でも、子どもが興味を持ちやすいクリスマスケーキ作りを行ったところ、普段は集会所に訪れることの少ない親子連れの住民に参加していただくことができた。若い世代の参加が増えたことで集会所が賑わい、住民にも喜んでいただけたのではないかと思う。</p> <p>また、2019年度の活動は戸別訪問による成果も大きかった。サロン活動に合わせてお宅を訪問したことで、サロンに参加することをためらっていた住民にも集会所へ足を運んでいただくことができた。また、サロンにはあまり参加されない住民と顔を合わせてお話をし、「足腰に負担を抱えていて集会所に行くのが難しい」「他の住民と顔を合わせることに不安を感じている」といった声を聴いた。一人でも多くの住民の力となるには、サロンを開いて住民が来ることを待つばかりでなく、戸別訪問などで私たちの方から住民にアプローチすることが必要だと改めて感じた。</p>
<p>今後の展望など</p>	<p>現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまで行ってきた事業を再開することが難しい状況にある。そのため、今後は、このような状況の中でも住民に対してできることはないか、住民とどのように関わっていくかを模索していきたいと考えている。これまで築いてきた現地との繋がりを絶やさないためにも、万全な対策を講じた上で、新たな活動を行っていきたい。</p>

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	350,000	297,343 円使用 (52,657 円返金)
他機関助成金	536,322	
自己資金	153,263	
合計	1,039,585	

■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
交通費	レンタカー代・保険代	600,000	278,890 (25,960)
	ガソリン代		52,437 (2,317)
	高速代		35,670 (1,270)
	駐車場代		1,450
	バス代		166,435 (166,435)
	JR 代		25,374
	小計		560,256 (195,982)
宿泊費 (みやぎ生協様に許可を いただいで使用しました)	波板地域交流センター 宿泊代	300,000	244,500 (81,000)
消耗品費	物品代	130,000	27,241 (6,398)
	食糧代		112,023 (12,853)
	小計		139,264 (19,251)
通信運搬費	レターパック代 (みやぎ生協様に許可を いただいで使用しました)	9,585	4,080 (1,110)
	その他		3,583
	小計		7,663 (1,110)
謝金	防災教育プログラム代	0	20,000
雑費	備品代等	0	15,245
合計		1,039,585	986,928 (297,343)

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

【11月・芋煮会】



【12月・クリスマスケーキ作り】



【12月・クリスマスケーキ作り】



【2月・オリジナルカレンダー作り】

